

平成 27 年度 CC クラブ・ホームカミングデイ

～邦楽演奏と地域活動の紹介～

邦楽演奏全文版

平成 27 年 7 月 22 日に開催された「ホームカミングデイ～邦楽演奏と地域活動の紹介～第 1 部三味線演奏：あなたの知らない邦楽ワンダーランド」の演奏曲、楽器の説明および質疑、応答を掲載いたします。CC 通信 30 号では紙面上掲載できなかった部分も含め掲載いたしました。

第 1 部 三味線演奏：あなたの知らない邦楽ワンダーランド

<司会の紹介>

本日の第 1 部は「あなたの知らない邦楽ワンダーランド」というテーマで 5 期中島久子さんを中心とした中島勝祐記念会（中島久子さんがご主人の遺志を継いで曲の保全、後継者の育成、邦楽の普及等を行う会）の皆様をお願いいたしました。

<越後獅子の演奏>

<中島久子さん挨拶>

皆様こんにちは。5 期中島です。

私は岩村様の紹介で CC 大学に入学いたしました。2012 年に修了してから、いきいきプラザ、国際交流協会、カナダ大使館、伊勢神宮などでボランティア演奏をしてきました。2012 年 6 月のしまナーシングホームを皮切りに、本日で 20 回を迎えます。本日、この区切りの会をここで迎えることを大変嬉しく思っています。

メンバーを紹介いたします。

唄は岡安祐梨絵 岡安喜久波 東音平尾ひろみ、三味線は岡安祐璃 岡安香代 岡安祐璃花 笛は望月美都輔で皆さんの流派の名前です。

本日は皆様が馴染みの深い歌舞伎の曲を短くして演奏いたします。解説は岡安祐璃さんがいたします。

<岡安祐璃さんの解説>

本日は「歌舞伎音楽」と題して「娘道成寺」、「鏡獅子」、「勸進帳」をお送りいたしますが、みんな歌舞伎十八番、或いは新十八番の演目です。幕開けに演奏したのは「越後獅子」のさらしの合方です。まったく違ったメロディを同時に弾き合わせるという奏法は洋楽にはなく邦楽独特の奏法です。



これから演奏します「娘道成寺」は安珍と清姫の物語です。白拍子花子（清姫）が女人禁制の道成寺の鐘を拝ませて欲しいと懇願し、舞を舞うことで道成寺に入り、清姫の化身である花子が踊ります。音楽としては一人が地（ベース）を弾いて、もう一人が違うメロディを弾く「たま」という奏法で踊りをひきたてています。また、チンチリレンの合方は役者さんが着替えをするときに観客を飽きさせないための音楽で、これも二つのメロディを合わせる奏法です。

今日はその場面を演奏します。



<娘道成寺の演奏>

次の曲は「鏡獅子」です。この曲は、上下で構成されています。上の巻は初春の鏡開きに小姓弥生が踊ります（本日は演奏しません）。下の巻は花にたわむれる蝶の踊りと獅子が出現し、毛をふり舞う様子を「狂い」「髪洗い」の合方に合わせて踊ります。今日は下の巻から抜粋して演奏します。

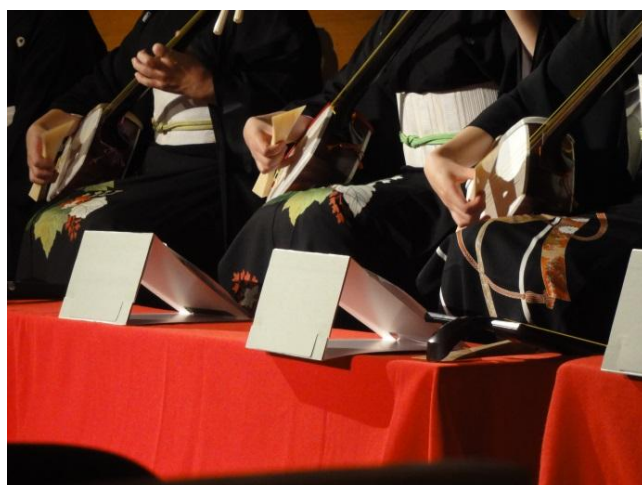


<鏡獅子の演奏>

次は勸進帳です。皆さんご存知の歌舞伎十八番で、市川団十郎が初演をした評判の演目です。義経が頼朝に追われ安宅の関を越える場面です。関を越えて、山中に入り関を無事に通るため弁慶が義経を打ち、その事を詫びる場面と山を越え逃れて行く様子を今日は演奏します。全曲、上調子といって棹に「かせ」をかけて出す高い音を入れて曲を華やかにしています。芝居では入りませんが「瀧流し」という合方で最後に盛り上げています。

<勸進帳の演奏>

最後の曲になりますが、中島勝祐の処女作です。この他 110 曲の素晴らしい曲があります。これから演奏するのが「松・竹・梅（まつ・たけ・うめ）」です。松には上調子が入り浄瑠璃風に、竹には現代調に低音の三味線が入ります。低音三味線は裏に穴を開け低い音を出しています。梅には替手（二つの違ったメロディーを弾き合わせる）が入り、メロディに厚みをつけ、曲の雰囲気盛り上げます。この曲ばかりでな



く、新しい楽しい曲がたくさんありますので、今後も楽しんでいただけたらと思っています。今日は「松・竹・梅」を全曲ではなく、少し短くしております。

<松・竹・梅の演奏>

楽器の解説

笛の解説

最初の方で、黒い笛と茶色の笛を取り換え引き換えして行きました。何故変える必要があるかと言いますと、黒い笛は力強い音を出し、能楽から入って来ました能管という笛になります。この笛はメロディを吹くことは出来ません。曲を盛り上げるため部分的に使います。皆さんの良くご存じの幽霊の登場の場に使われます。茶色の笛はお祭りのお囃子に使われる篠笛というもので、篠竹が使われています。竹をそのまま切って、穴を開けただけのシンプルな笛ですが、メロディを吹くことができます。篠笛は音域が狭く2オクターブしか出ないので、それ以上の音域を出すために1回に20~30本を使います。その日の唄い手の音程に合わせて使うものを決めます。



三味線の解説

三味線は胴、棹、天神で構成されています。糸は3本で、絹糸です。一の糸が一番太く、三の糸が一番細いです。この糸を支えているのが駒で、糸を持ち上げてバチで叩いて音を出します。

棹の上の方には上駒があつて、金色の部分ですがこれも糸を支えています。この部分で邦楽独特のビーンという余韻のある音を出します。これを「さわり」と言い、邦楽には大切なものです。弾く時は膝の上に、ゴムを敷いて三味線が滑らないようにして弾きます。

バチは象牙ですが、練習の時は木を使います。棹と胴は紅木（こうき）という紅の木を使います。皮は猫の皮です。三味線は3つに分解して小さな箱に入れ持ち歩きます。

三味線は自然の素材（木、皮、絹など）を使っているので湿気、乾燥を嫌います。強いライトを浴びたりすると音が変わったり破れたりします。演奏中でも常に糸の張りを換え、音の調整をします。雨の日の移動は特に気を遣い、乾燥材を中に入れ、周りをビニールで包装し、衝撃を与えないようにして持ち運びますが、一方空気に馴染ませることも抵抗力をつけるために大切です。



質問コーナー

質問：三味線の由来は？

大陸から沖縄に渡り、本土にきたものと思われます。琵琶法師が初めて手にし、最初はバチがなかったが、使っていた琵琶用のバチを使ったのが変化の始まりで、その後、試行錯誤があって現在の形になったと思われます。

質問：唄を唄う時の扇子の使い方は？

扇子は狂言や寄席などでも使われますが、長唄の場合は、これから唄いますよという合図に扇子を持ちます。3人一緒に唄うときは3人、1人だけで唄う時は他の人は持ちません。

質問：ボイストレーニングはどのようにしますか？

基本的にはそのひとその人がやりますが、お腹から声を出すのが基本です。発声練習もします。もともと良い声の人もいますし、練習を重ねて、修行を積んでやっとその域までに達する人もいます。洋楽とは違って伝承音楽ですので、やはり、師匠について習うということが一般的です。それに常に声を出すことが大切です。お腹から声を出し、正しく発声することによって声帯と腹筋も鍛えられると思っています。

